

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
彰栄保育福祉 専門学校	昭和51年7月1日	帆 苅 猛	〒112-0001 東京都文京区白山4-14-15 (電話) 03-3941-2613			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 彰栄学園	昭和34年6月22日	理事長 林 淳三	〒112-0001 東京都文京区白山4-14-15 (電話) 03-3941-2613			
目 的	キリスト教主義学校として、建学の精神に基づき、実践的かつ専門的な知識及び技術の修得だけでなく、保育者として必要な人間愛を身につけた人材を養成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会 福祉	教員養成 専門課程	保育科	2年(昼)	2265単位時間 (87単位)	平成12年文部省 告示第17号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	540単位時間 (36単位)	1500単位時間 (50単位)	0単位時間 (0単位)	495単位時間 (11単位)	30単位時間 (1単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240人	275人	14人	29人	43人		
学期	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 試験(論文含む)の成績及び平素の学習状況を総合評価し、60点以上を合格とする	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月25日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■春 季：3月25日～3月31日 ※校長が必要と認めるときは、休業日に授業又は実習を行い、若しくは臨時に休業日を設けることが出来る。			卒業・進級 条件	学則で規定する履修方法により授業科目の単位の取得を認定された者	

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>■クラス担任制 (有)・無</li> <li>■長期欠席者への指導等の対応 担任より学生及び保護者へ手紙・電話・メールなどで連絡を取り状況を確認する。</li> <li>■教職員による学生生活委員会を組織。</li> </ul>	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■課外活動の種類 ボランティア募集及び地域の幼稚園・児童福祉施設のイベント補助などに個別に参加している</li> <li>■サークル活動 (有)・無</li> <li>■新入生研修会</li> <li>■チャペル・アワー</li> <li>■彰栄学園スポーツ大会</li> <li>■彰栄保育福祉専門学校学園祭</li> <li>■彰栄学園クリスマス礼拝</li> </ul>
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主な就職先、業界等 幼稚園及び、保育所などの児童福祉施設</li> <li>■就職率<sup>※1</sup> 97.3%</li> <li>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup> 70%</li> <li>■その他 (任意) 卒業生の26%は、本校の介護福祉専攻科に進学している  (平成25年度卒業者に関する平成26年5月時点の情報)</li> </ul>	主な資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭2種免許状</li> <li>・保育士</li> <li>・専門士 (教育・社会福祉専門課程)</li> </ul>
中途退学の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中途退学者31名    ■中退率11.3%</li> <li>平成25年5月1日在学者274名 (平成25年4月入学者を含む)</li> <li>平成26年3月31日在学者243名 (平成26年3月卒業生を含む)</li> <li>■中途退学の主な理由 進路変更、家庭都合、経済的理由</li> <li>■中退防止のための取組 各クラス担任は随時個別相談などをおこなっている。 家庭環境により学費の相談及び奨学金などを紹介している。</li> </ul>		
ホームページ	URL: <a href="http://www.shoei.ac.jp/">http://www.shoei.ac.jp/</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職 (内定) 状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員 (1年以上の非正規の職員として就職した者を含む) として最終的に就職した者 (企業等から採用通知などが出された者) をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職 (内定) 状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない (就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育職員免許報及び児童福祉法などに定められた規定に基づいて教育課程の編成を行っているが、保育者養成に関わる外部の委員などが参画する「教育課程編成委員会」を組織からの助言を活用するとともに、各実習及び就職先となる、幼稚園及び保育所・社会福祉施設等と密接な連携体制を確保して、教育内容の充実を図る。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 26 年 6 月 21 日現在

名 前	所 属
阿部 光佑	全国幼稚園教員養成機関連合会 顧問
山本 慎介	わかたけかなえ保育園 園長
児島 康夫	川越キングス・ガーデン 施設長
林 淳三	彰栄学園 理事長・学園長
帆苺 猛	彰栄保育福祉専門学校 校長
加藤 啓	彰栄保育福祉専門学校 校長補佐兼保育科学科長
伏見 幸子	彰栄保育福祉専門学校 介護福祉科学科長
綾 牧子	彰栄保育福祉専門学校 教務委員会委員長
芦野 裕一	彰栄保育福祉専門学校 事務局長
根本 亮	彰栄保育福祉専門学校 教務課長

(開催日時)

第 1 回 平成 26 年 6 月 21 日 12 : 00~13 : 30

第 2 回 平成 26 年 8 月 30 日 13 : 00~14 : 30

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

教員養成機関指定基準及び指定保育士養成施設の指定及び運営の基準についてなどにに基づき、地域に密着し本校の教育方針を十分に理解して実習生を受入れ、教育の実績がある幼稚園及び児童福祉施設を選定している。

また、各実習指導担当者は、実習期間中に実習生の日誌などの個別指導を行い、知識・技術などの習得状況の確認及び評価を行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
教育実習	24日間を春期と秋期の2期に分けて実施する。春期は観察実習・参加実習を中心に指導実習を行う。秋期は参加実習・指導実習を中心に進められる。実習期間を通じて、毎日実習日誌をつけ、保育の計画立案から準備、実践のすべてを体験的に学ぶ。	幼稚園
保育実習Ⅰ-保育所	保育所及び保育所以外の児童福祉施設などで、保育・養護の一日の流れを理解し、観察や関わりをとおして、利用者のニーズを理解する。実習期間を通じて、毎日実習日誌をつけ、保育の計画立案から準備、実践のすべてを体験的に学ぶ。各実習において、生活や援助など一部分を担当し、援助計画及び保育・養護技術を習得する。また、職員間のチームワークや家庭・地域との連携、安全及び疾病予防への配慮について理解する。	児童福祉施設（保育所）
保育実習Ⅰ-施設		児童福祉施設（保育所を除く）

保育実習Ⅱ	保育所においては、参加実習・責任実習を行うが、その段階においては実習園の状況による。Ⅰ期で習得したことを踏まえ、保育士として必要な資質・能力・技術の更なる向上をめざす。	児童福祉施設（保育所）
-------	--	-------------

### 3. 教員の研修等

（教員の研修等の基本方針）

「一般社団法人全国保育士養成協議会」（略称：保養協）と「全国幼稚園教員養成機関連合会」（略称：全幼教）等の年次総会、保養協「現代保育研究所」が開催する研修講座、保養協「全国保育士養成セミナー」等、本校が加盟する関係団体が開催する会議、講座等に参加し、最新の行政情報や各種課題についての情報を収集するとともに、専門的な知識等の修得に努めている。

また、学園に設けられている「彰栄表現研究所」が開催する保育講座等に教員が参加し、保育実践に関する具体的な知識や技術の修得に努めている。

さらに、保育実習実施期間中は全専任教員が全実習先を巡回訪問し、実習先の施設長や実習担当者と面談することを通じて、保育現場が直面している諸課題や保育者養成上の要望などについて理解を深め、教育に反映させるよう努めている。

なお、研修については、教員会等において報告することを通じて、成果の共有化を図っている。

### 4. 学校関係者評価

（学校関係者評価委員会の全委員の名簿）

平成26年6月21日現在

名 前	所 属
児島 康夫	川越キングス・ガーデン 施設長
鈴木 一伸	二ツ橋愛隣幼稚園 副園長、第79回卒業生
山本 慎介	わかたけかなえ保育園 園長
齋藤 洋子	第48回卒業生、彰栄学園同窓会役員
阿川 裕孝	公立小・中学校 元校長
林 淳三	彰栄学園 理事長・学園長
帆苺 猛	彰栄保育福祉専門学校 校長
加藤 啓	彰栄保育福祉専門学校 校長補佐兼保育科学科長
芦野 裕一	彰栄保育福祉専門学校 事務局長
堀越 弘二	彰栄保育福祉専門学校 事務主任

（学校関係者評価結果の公表方法）

本校ホームページ URL: <http://www.shoei.ac.jp/>

### 5. 情報提供

（情報提供の方法）

本校ホームページ URL: <http://www.shoei.ac.jp/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程保育科) 平成26年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			キリスト教概論	キリスト教及び聖書の基本知識を習得する。これにより、学園の建学の精神であるキリスト教に基づく「愛と奉仕」を深く理解する。	1通	30	2	○			○		○			
○			法学（日本国憲法）	日本国憲法の基本的な考え方（基本的人権の尊重・国民主権・平和主義）及び近代市民法システムの特徴を学び、現代日本の法をめぐる主要な課題を理解する。	1後	30	2	○			○			○		
○			体育理論	ヒトの形態・機能・体力の変化と、運動とのかかわりを理解する。乳幼児期から思春期までの発育発達について、体力特製の加齢変化、運動指導の実例等から子ども達の成長という現象を多角的に捉えられる目を培う。	1後	30	2	○			○				○	
○			体育実技	ジャグリング、バランスボール、短・長なわを用いた運動を通して「できない」が「できる」ようになっていく過程を経験し、指導者としての重要な資質を形成する。	2前	30	1			○	○			○		
○			外国語コミュニケーション	童謡・日常及び学校生活の英語リスニング・会話・文法等を通して、保育現場で使う英語表現とコミュニケーション力を身につける。	1通	60	2			○	○				○	
○			情報機器演習	保育素材等を用い、Word・Excel・PowerPointの基本的な操作を学ぶ。又情報機器の保育・教育場面への応用技術も身につける。	1通	60	2			○	○				○	
○			身体表現	ごっこ遊び・運動遊び・リズム遊び等様々な身体表現をとおして、子どもたちが面白いと感じる運動遊びや表現活動を引き出すことを目指す。子どもたちの発育発達状況に応じた運動遊びの選択・環境設定・指導と援助の実践的方法を学ぶ。	1通	60	2			○	○			○		
○			音楽表現ⅠA	楽譜を読むために覚えておかななくてはならない様々な規則を、実技も交えながら学ぶ。リズム打ちや弾き歌い等も含まれる。	1前	30	1			○	○			○		
○			音楽表現ⅠB	保育現場において必要とされる生活のうた・季節毎のうた・手遊び・讃美歌等を弾き歌いするための発声法、歌唱法を学ぶ。	1後	30	1			○	○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		音楽表現Ⅱ	各自が授業に向けて練習してきたものを教員が個人指導する事により、保育現場で必要とされるピアノの基礎技術、童謡伴奏および弾き歌いを学ぶ。暗譜・マーチ・人前で発表する等、実習及び保育現場ですぐに使える実力を身につける。	1通	60	2		○		○					
	○		音楽表現Ⅲ	音楽Ⅰ・音楽Ⅱを基礎とし、実習や就職試験につながる実践的なピアノ演奏および弾き歌いの技術を身につける。ピアノ・歌ともにレパートリーを増やす。	2前	30	1		○		○		○			
○			造形表現ⅠA	ハサミ・紙工作・接着剤・小刀・描画材等、用具や素材の関わりと表現方法を学び、表現活動を通して得られる心の育ちや発達を考える。絵本製作を課題とする。	1前	30	1		○		○		○			
○			造形表現ⅠB	表現Ⅰとの内容を重ね合わせ、子どもの造形表現を通しての発達や特徴を理解する。年間の課題「12か月の環境整理ノート」の制作を行う。	1後	30	1		○		○		○			
	○		造形表現Ⅱ	造形表現ⅠA・Bで学んだ造形表現の基礎知識を基に、壁面パネル・粘土・自然物・布等を利用し、保育の中での造形表現活動に展開する。	2後	30	1		○		○			○		
○			言語表現	保育現場で子どもが触れている児童文化財（絵本・紙芝居・昔話・伝承遊び等）の種類や活用について実際触れながら理解を深める。	2後	30	1		○		○		○			
	○		国語表現法	言葉による表現の意義や特性等に触れ、文章表現力の育成に努める。園だより等保育現場に必要な国語力・表現力の追求。	2通	60	2		○		○		○			
○			保育者論	子どもの育ちを支える保育者のあり方について様々な視点から考え、職務内容・意義・役割等を理解し、その重要性を認識する。	2後	30	2	○			○		○			
○			教育原理	「教育」とはどのような営みかを考え、教育の意義・目的、教育の基礎的概念、理論、歴史、制度等について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○			
○			保育原理Ⅰ	保育現場において専門的な知識を用いて判断したり、専門的な技術を用いて対応するための様々な基礎知識を身につける。	1前	30	2	○			○			○		
	○		保育原理Ⅱ	保育者とは何か、基本的な考え方を理解した上で、保育者となったときに求められる専門性や資質を形成していく基礎を培う。	2前	30	2	○			○		○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携			
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任				
○			児童家庭福祉	児童家庭福祉の意義・歴史・法律・制度・サービスなどの体系を学ぶとともに、児童の人権の尊重のあり方・保育士の役割、関係機関との連携と児童・家庭への援助方法について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○				
○			社会福祉	現代社会における社会福祉の意義、理念、法体系、制度及び行財政の要旨を理解する。また社会福祉援助技術及び福祉専門職の役割について、現代における利用者保護制度について理解する。	1前	30	2	○			○				○			
○			保育・福祉相談援助Ⅰ	保育実践にとって必要な相談援助の概要、方法の理解 ソーシャルワークの価値、倫理等について理解する。又ソーシャルワーカーとしての基本的姿勢を学ぶ。	2前	30	1		○		○				○			
○			社会的養護Ⅰ	子どもの養護についての基礎を理解し、保育士としての自分の社会的責務を認識する。社会的養護の歴史的変遷・現状及び原理を理解する 福祉施設における養護の実際を理解する。	1前	30	2	○			○					○		
	○		社会的養護Ⅱ	児童養護の体系と児童福祉施設の概要の理解、福祉施設の果たす役割についてと援助方法の実際について理解する。	2後	30	2	○			○					○		
○			教育心理学	教育心理学とは何か、基本的な事項について理解をはかり、こどもの発達に則した対応をするための知識の獲得と、子育て支援に関する基礎的能力を養う。	1後	30	2	○			○			○				
○			発達心理学	人間の一生の変化の過程の中で最も重要な乳幼児期を理解するために、発達心理学の基礎的知識の習得と保育現場における子どもを理解する。	1前	30	2	○			○					○		
○			保育実践の心理学	出生前期から老年期までのあり様について学び、保育の現場で会う子どもや家族をはじめとする子どもに関わる人々を理解し、支援するための視点を広げる。	2後	30	1		○		○					○		
○			子どもの保健Ⅰ	小児の心身を医学的に学び、子どもの病気とその対応・予防法について理解する。また保育実践における保健活動の重要性を理解する。	1通	60	4	○			○					○		
○			子どもの保健Ⅱ	乳幼児期の成長発達はその一生に影響を及ぼすことが多い。子どもの保健の実際を実習を通して保育者として必要な知識と技術を習得する。	1前	30	1		○		○						○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			子どもの食と栄養Ⅰ	子どもの栄養の特徴と食生活の意義を理解する。栄養の基礎的知識と小児栄養の実際を学び、保育者として食生活と生活全般、食育の望ましい形を理解する。	2前	30	1		○		○				
○			子どもの食と栄養Ⅱ	子どもの発達に伴う栄養の特徴を理解し、乳幼児期から思春期までと特別な配慮を必要とする事例についても対応できる力をつける。	2後	30	1		○		○				
○			家庭支援論	家庭・家族をとりまく社会的状況を理解し、適切な相談支援を行うためのさまざまな支援体制と展開、関係機関との連携について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
	○		臨床心理学	悩みや困難を抱える人の心を理解して支えることの実践を学ぶ。どのような現場があるのか、どのような方法で評価するのか、どのような支援を創り出してきたのかを学び、人を理解するセンスを養う。	2通	60	2		○		○			○	
	○		生涯学習論	生涯学習の意義・目的、基礎的概念・理論、歴史・制度について学ぶことで体系的な知識を習得し、保育者としての専門性を高める。	1後	30	2	○			○			○	
○			保育・教育課程論	「保育所の保育の計画」「幼稚園の教育課程・指導計画」と評価の基本、子どもの発達と指導計画、指導計画の実際の実成と展開についての手順を具体的に学び、身につける。	1後	30	2	○			○			○	
○			保育指導法総論	幼稚園と保育所における保育の内容を、具体的な事例を通してディスカッションやグループワークから子どもにとっての保育の在り方を総合的に学ぶ。	1前	30	1		○		○		○		
○			健康指導法	幼児期は生涯にわたって健康的な生活をおくる基礎となる習慣を身につける重要な時期。現代の子供たちを取り巻く社会的環境、生活環境を理解し、子どもの健康をめぐる諸問題について考える。	2通	60	2		○		○		○		
○			人間関係指導法	「遊ぶ仲間」「遊ぶ場」「遊ぶ時間」が確保されている保育の場において、子ども達が対等な仲間の中で多様な経験をし、自分らしさを育むために、保育者はどのような視点を持ち配慮を行うべきか、具体的な事例を取り上げグループワークによって考える。	2後	30	1		○		○			○	
○			環境指導法	子どもの身近な環境に関する領域の指導法として、保育者として幼児を取り巻く環境の教育的意義および環境の知識を活用した遊びなどの実践力を身につける。	1通	60	2		○		○		○		



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			言葉指導法	子ども達の発達に沿った言語獲得のありようを学ぶ。グループワークやプレゼンテーションも取り入れながら、乳幼児期の発達とことばについて、ことばを育てる保育者の役割、保護者対応とことば等、ことばの持つ力を理解する。	2通	60	2	○			○					
○			表現指導法ⅠA	子どもの表現活動への援助や環境について学ぶ。はさみ・絵の具・素材を使った表現活動、手作り教材の製作、12か月環境の整理ノートの製作等を通して感性の育ちや「感じて、考えて、行動する」表現の営みの意義を知る。	1前	30	1	○			○					
○			表現指導法ⅠB	音楽と身体運動を用いての表現を学ぶ。リズムあそび・ボール遊び、スキップ・まねっこ遊び、手遊び等、身体運動の中にあるリズムを楽しむとともに、保育の全体の中での豊かな表現的環境づくりを考える。	1後	30	1	○			○					
	○		表現指導法Ⅱ	グループ・個人制作による視聴覚的教材を自作自演することを中心に、表現活動への理解を深める。実習に向けた教材の作成及び卒業制作。	2通	60	2	○			○					
○			教育相談論	子どもの発達理解と相談支援、保護者への対応、発達障害や気になる子どもと保護者への関わり、保育現場でのカウンセリング技法等、事例学習や研究発表を中心に保育・教育相談の基礎を身につける。	2通	60	2	○			○					
○			乳児保育	0, 1, 2歳児の発達過程と低年齢児保育の基本的留意事項や保育技術、乳児保育の実際と記録・計画、さらに子育て支援における保育者の対応と課題についても学ぶ。	1通	60	2	○			○					
○			障害児保育	障害児保育を支える理念、歴史的変遷を学ぶ。障害の理解と保育における発達の援助の方法、家庭および関係機関との連携、障害児保育にかかわる現状と課題を考える。	2通	60	2	○			○					
○			社会的養護内容	各自の実習体験を土台として、援助者としての問題解決能力やスキルを高めていく。施設養護・家庭的養護の特性及び実践、児童虐待の実態と事例検討、日常生活支援・治療的支援、自立支援の実際、保育士の倫理及び責務等の学びからこどもの権利擁護の視点での児童観や施設養護観を明確にする。	2前	30	1	○			○					

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			保育・福祉相談援助Ⅱ	社会福祉援助技術の「価値」「知識」「技術」について身に付け、生命の意味や児童虐待について考えていく。対象理解の方法を事例研究をとおして学ぶ。	2後	30	1		○		○					
	○		生活文化	子どもの生活を、食事・衣生活実態・住居の歴史と消費生活の各側面から学ぶ。作って食べることの意味や食事のマナー、生活に必要な家事技術、更に日本の行事まで広く考える。	2後	30	1		○					○		
○			教育実習指導	幼稚園実習での学びを深めるために、事前準備と事後学習を行う。実習の意義・目的・内容・段階の理解、幼稚園の制度と教育基本等の基礎理論をベースとし、保育実技・実習日誌・指導案と併せて体系化を目指す。	1通	45	1			○	○		○			
○			教育実習	24日間を春期と秋期の2期に分けて実施する。春期は観察実習・参加実習を中心に指導実習を行う。秋期は参加実習・指導実習を中心に進められる。保育の計画立案から準備、実践のすべてを体験的に学び、実習期間を通じて毎日実習日誌をつける。	2前	180	4			○		○	○		○	
○			保育実習指導Ⅰ	保育所実習・施設実習についての事前事後学習を行う。保育実習の意義・目的・内容・方法、保育所・施設の理解、保育技術の習得、実習日誌の記録の書き方と保育計画の立案方法等の知識・技術を身に付け、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。	1通	60	2		○		○		○			
○			保育実習Ⅰ-保育所	1年次2月に12日間90時間以上の実習を行う。保育所の一日の流れを理解し、観察や実際の関わりをとおして乳幼児の発達を学ぶ。又生活及び遊びなど一部分を担当し、保育計画・指導計画・保育技術を習得する。職員間のチームワークや家庭・地域との連携、安全及び執病予防への配慮について理解する。実習期間を通じて毎日実習日誌をつける。	1後	90	2			○		○	○		○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育実習Ⅰ-施設	保育所以外の児童福祉施設等で実質90時間以上実施とする。養護の一日の流れを理解し、観察や関わりを通して利用者のニーズを理解する。又生活や援助など一部分を担当し、援助計画・養護技術を習得する。職員間のチームワークや家庭・地域との連携、安全及び疾病予防への配慮について理解する。実習期間を通じて毎日実習日誌をつける。	2前	90	2			○		○	○		○
	○		保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅱの為の事前事後学習である。保育実習Ⅰ・施設実習の振り返りをし、指導案の理解・作成・実践を学ぶ。又保育の観察と記録の取り方、記録の考察の仕方、記録による子ども理解、保護者の役割理解等保育者になるための実践力を修得する。	2通	30	1		○		○		○		
	○		保育実習Ⅱ	2年次8月下旬から9月上旬に実質12日間90時間以上の実習を行う。Ⅱ期では、参加実習・責任実習を行うが、その段階においては実習園の状況による。Ⅰ期で習得したことを踏まえ、保育士として必要な資質・能力・技術の更なる向上を目指す。実習期間を通じて毎日実習日誌をつける。	2前	90	2			○		○	○		○
○			保育・教職実践演習	講義を中心に、グループワークやロールプレイングなどを用いて授業をすすめる。実習での体験を基に、乳幼児に対する理解や関わりのあるあり方、保護者との関係の構築方法、乳幼児や保護者に対する責任とは何か等保育の場で実践にどのように結びつけたらよいかを考える。又保育実践力を高めるための技術向上を図り、幼稚園や保育所が抱えている課題とその解決方法等についても考える。	2後	60	2		○		○		○		
合計						58科目	2565単位時間 (98単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(卒業要件) 2年以上在学し、学則第15条により課程終了の認定を受けた者 (履修方法) 2年以上在学し、教育職員免許法及び児童福祉法の規定により、学則別表1の授業科目を履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	22週